



一般財団法人

全日本野球協会

Baseball Federation of Japan

中長期計画

MID-TERM Plan

—— 野球伝来150年。次の150年に向けて ——

1872年、アメリカ人教師ホーレス・ウィルソンが
日本に野球をもたらしてから2022年で150年を迎えました。
全日本野球協会(BFJ)は、ここに「BFJこれからの野球宣言」を
発表し、次代に向けた中長期計画を策定致しました。

結ぶ ————— 野球をしよう

野球は9つのポジションがあることに象徴されるように、多様性を生かせる競技です。また、自分の特長や興味関心によって、プレイすることだけではなく、見る・支えるなど様々な立場に関わることができます。「みる」「ささえる」も野球を「する」ことの一部です。そして、野球をすることは、それを通じて多くの人たちと知り合い、関係を深めることにつながります。BFJは野球の普及を通じ、人と人との結びつきを大事にする社会を目指します。

継承する ————— 野球を語ろう

野球はその長い歴史から、ひとそれぞれの想いがたくさん詰まったスポーツです。親から子へ、子から孫へ、野球を語り合うことが、想いや学びを共有することのきっかけとなり、その思いや学びは次世代へのレガシーとなり、社会が持続的に発展していくための礎となります。BFJは野球の歴史や野球を通じて得られる学びを大切に継承していくことで、社会の持続的な発展に貢献していきます。

進化する ————— 野球で夢を見よう

日本において、野球はこれまでも数々のスター選手の活躍を通して社会に明るい話題をもたらし、あるいは日本代表やそれぞれが応援するチームの勝利が、人々に勇気を与えてきました。しかし、科学の発展や、世界各地でのさらなる競技の普及によって、野球という競技はまだまだ進化・成長しています。国内においても育成・指導システムの整備がスタートしたばかりであり、関係団体で協働した普及振興策にも連携を深める余地が残されています。BFJは国内外での野球の発展に尽力し、野球がこれまでと同様に、あるいは時代に即した形で、社会に夢を与えるスポーツであり続けるよう努めていきます。

日本における野球はプレイヤー、指導者、審判員、記録員、地域その他多方面から関わってくださった皆様、ファンの皆様のおかげで発展を遂げ、大きな人気を博してきました。
150年という歴史を重ねてきたからこそ、野球はその伝統の力でまだまだ伸びていくことができます。

目次

- | | |
|-------------------------|-------------------------------------|
| 2 野球伝来150年～BFJこれからの野球宣言 | 7 代表強化に向けて |
| 3 ごあいさつ | 8 普及振興・指導者養成に向けて |
| 4 2023年からのBFJ事業構想チャート | 11 2023年から2028年までの
おもな国際大会スケジュール |
| 5 日本野球界全体図・BFJ内組織図 | 12 組織沿革・組織概要 |
| 6 ガバナンス(NF機能)強化に向けて | |

ごあいさつ



一般財団法人 全日本野球協会
会長(代表理事)

山中正竹

やまなか・まさたけ

日本に野球が伝来してから、2022年で150年が経過しました。
日本に初めての鉄道が開通したのと同時期に野球は日本にやってきました。

野球は、学生、社会人、軟式、プロがそれぞれの理念のもと文化を育んできた歴史があります。多様性を尊重する文化が野球にはあります。

BFJは、アマ各団体の代表として、これからの野球のあり方について、さまざまな角度から将来像について検討を重ね、新たに踏み出していく指針をここにまとめました。

指針の柱は「BFJこれからの野球宣言」です。3つのスローガンを掲げ、野球に携わるすべての皆さんとコミュニケーションを深め、伝統の力をエネルギーに変えて野球をさらに進化・成長させていく、そんな想いを表しています。

そのためにBFJは、さまざまな連携を推進する「ハブ＝hub」の役割を担ってまいります。世界と日本、団体と団体、そして指導者、審判員、ドクター、トレーナー、サイエンティスト、サイコロジストなどさまざまなアントラージュと選手をつなぎ、野球の未来に向かって歩みを進めてまいります。

山中正竹プロフィール

1947年4月24日生 大分県出身

選手歴

大分県立佐伯鶴城高等学校
法政大学 全日本大学選手権優勝(1968年)
東京六大学リーグ成績 80試合48勝13敗(同リーグ最多勝記録)
住友金属 7年連続都市対抗野球出場
都市対抗野球大会優勝(1971年新日鐵広畑補強選手)

指導歴

1981年～1984年 住友金属監督
1988年 ソウルオリンピック野球チームコーチ 銀メダル
1992年 バルセロナオリンピック野球チーム監督 銅メダル
1994年～2002年 法政大学監督
東京六大学リーグ7回優勝
全日本大学野球選手権優勝(1995年)
2002年 大学日本代表チーム監督
第1回FISU世界大学野球選手権 銅メダル

BFJ役員

(旧:全日本アマチュア野球連盟 現:全日本野球協会2013年～)

2011年～2014年 評議員
2015年～2016年 理事
2017年～2018年5月 副会長
2018年5月～ 会長

国際組織役員

世界野球ソフトボール連盟(WBSC)、アジア野球連盟(BFA)

2019年2月～ BFA副会長
2022年7月～ WBSC野球部門大陸代表副会長

その他

2016年 野球殿堂入り(特別表彰部門)

中央競技団体として、ガバナンス(NF機能)強化は必須です。

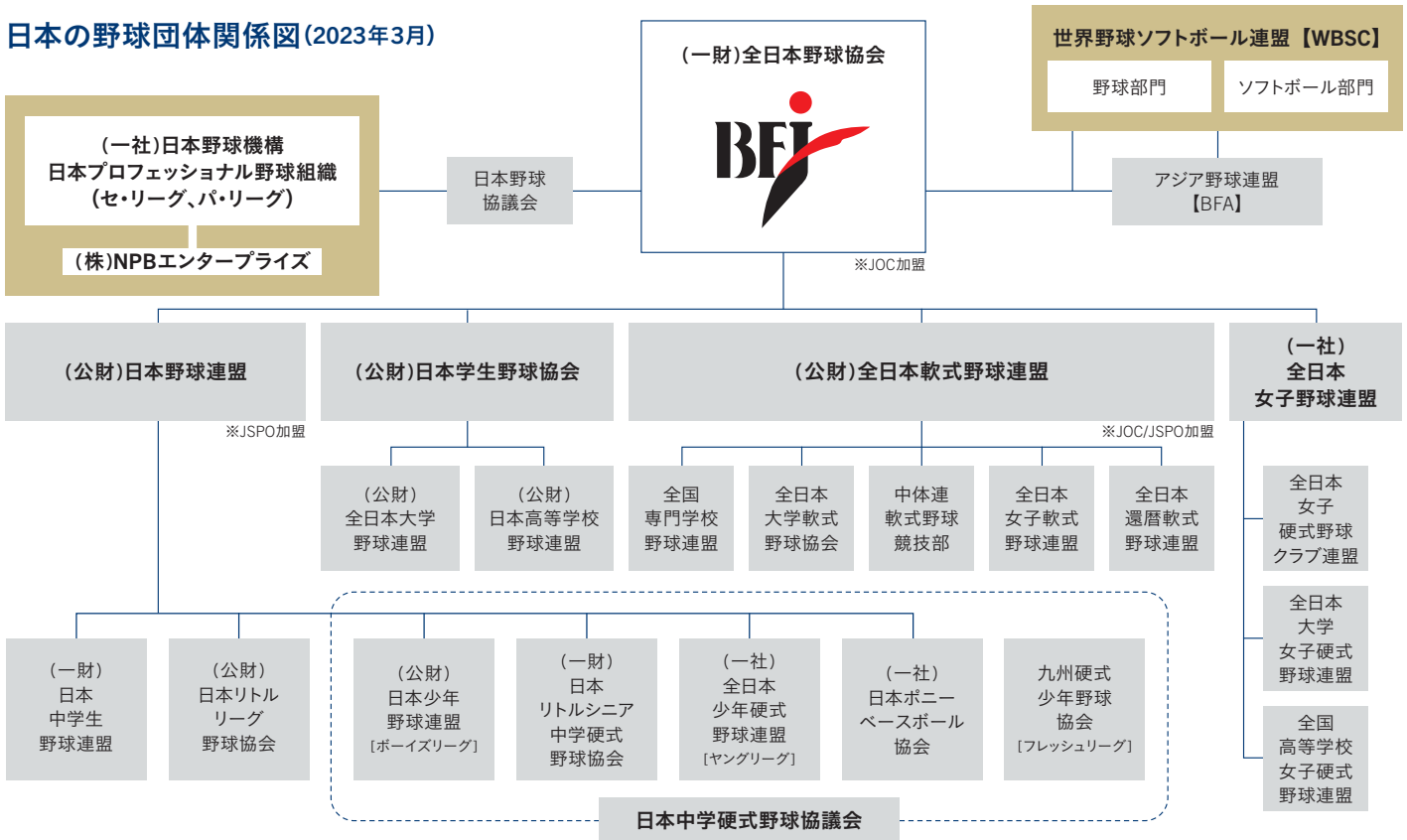
国内外の諸団体との連携・関係を強化し、NFとしての基盤を確固たるものとします。
ガバナンス(NF機能)強化を基に、代表強化、普及振興・指導者養成に繋げてまいります。

代表強化にあたっては、強化拠点の設置を検討していくとともに、一貫指導システムを確立し、各世代の侍ジャパンの強化育成に取り組みます。

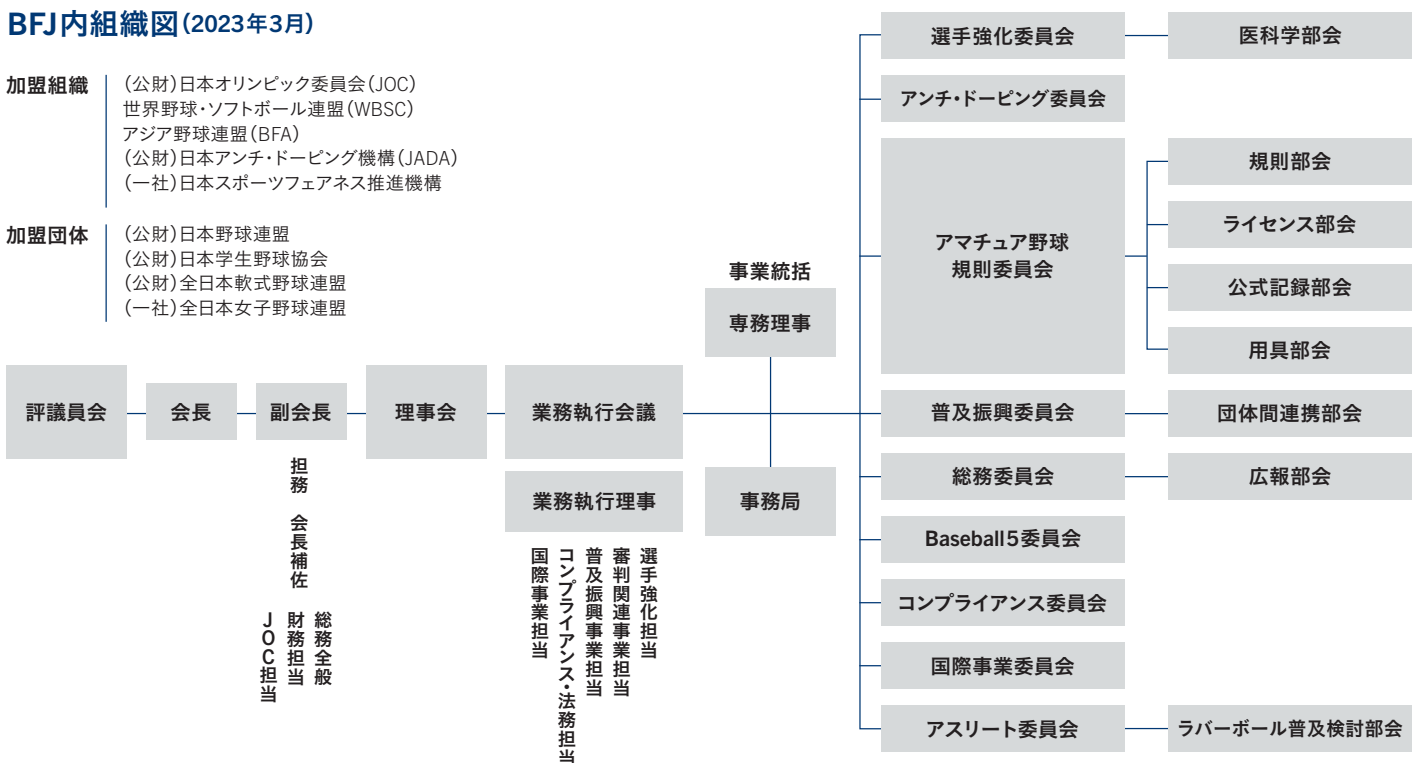
普及振興・指導者養成にあたっては、都道府県別・世代別組織の連携強化、指導者ライセンス制度の確立を進め、野球が人々にとってより身近に、楽しく感じられる仕組みづくりを進めてまいります。



日本の野球団体関係図 (2023年3月)



BFJ内組織図 (2023年3月)



- ・全日本野球協会(BFJ)は日本野球界を代表する中央競技団体として、日本オリンピック委員会(JOC)や、世界野球・ソフトボール連盟(WBSC)などに加盟しています。
- ・BFJ内には2021年6月に新たに設置されたアスリート委員会を含め、全部で9つの常設委員会があり、各委員会に業務執行理事を配置しています。うち5つの委員会に計8つの部会が紐づいています。
- ・各委員会は委員長以下副委員長、委員で構成され、部会は部会長以下副部会長・部会員で構成されています。
- ・委員会→業務執行会議→理事会という段階、連携を経て意思疎通を図り、業務を遂行しています。

国際関係力強化(協力・支援)

- WBSCおよびBFAからの情報収集強化、ポジション獲得戦略、プレゼンス向上
- 国際人材の養成・確保
- 国際大会の国内開催計画立案
- BFAにおける軟式ボール使用大会継続のための国内協議
- 国際審判員養成(コミュニケーションスキルアップ推進)



1. 2019年WBSC総会(堺市)
3. 2019年国際審判員研修会(柏市)
4. 2022年WBSC総会(台北)

五輪競技復活実現

- JOC・各野球団体との連携
- 具体策の立案



5. 2020東京大会で金メダルを獲得 6. 東京大会の正式種目決定会見

ガバナンスコードへの対応

- ガバナンスコードに基づく事業計画の策定
- ガバナンスコード遵守の体制整備
- 経営人材の育成検討
- インテグリティ確立

財政強化

- 財務強化のためのマーケティング活動推進
- 特定資産の有効活用の議論

発信・広報力の強化

- 発信力強化の体制づくり(公式SNSの活用、公認メディア「Homebase」の活用)



BFJ公式Twitter



BFJ公式Facebook



BFJ公認メディア「Homebase」

スポーツマンシップの浸透

- 恒常的研修企画の立案実施

コンプライアンス研修の充実

- コンプライアンス研修の恒常的企画の立案実施
- コンプライアンス研修用のeラーニング教材の作成

侍ジャパン強化育成



U23代表 2022年第4回ワールドカップ(台湾)

- ・一貫指導システムの検討
- ・強化事業への支援体制強化
- ・JOCの各施策との共生



大学代表 2022年第30回ハーレム大会(オランダ)



U18代表 2022年第30回ワールドカップ(アメリカ)



U15代表 2022年第5回ワールドカップ(メキシコ)

U12代表 2022
年第6回ワール
ドカップ(台湾)



女子代表 2019年
第2回アジアカップ
(中国)

Baseball5の普及・強化

▶p10参照

プロアマの連携強化

- ・日本野球協議会を通じた議論の推進
- ・各世代間の連携

強化拠点設置検討

- ・野球「知と技」の拠点づくりに関する検討
- ・指導者養成事業との連携

アンチ・ドーピング活動の推進

- ・教育啓発事業の計画立案 実施
→教育担当者の育成、アンチ・ドーピング情報の発信
指導者養成におけるアンチ・ドーピング活動の拡充
- ・eラーニングの導入推進

医科学との連携強化

- ・医科学情報の発信＝公認メディア「Homepage」、公式SNSの活用
- ・医科学データの現場への展開施策
- ・障害予防のための実態調査等の実施
- ・トラッキングデータ等の活用



4. 2022年10月 U-23代表「侍ジャパン野球健康診断」



アスリート委員会の活性化

- ・スポーツマンシップ浸透のための施策
- ・JOC・他競技団体との連携

審判員・記録員の育成



- ・新規公認審判員増員のための施策
- ・審判員登録のあり方検討
- ・規則改正協議
- ・日本野球協議会・オペレーション委員会との連携
- ・ライセンス付与事業の推進
- ・公認メディア事業との連携
- ・公認審判員「予備軍」への審判員の魅力発信
- ・金属バットと国際基準
- ・用具の規制についての包括的な議論



1. 2022年12月「第21回アンパイアスクール」
3. 2022年12月「BFJ審判インストラクター研修会」



左から『野球 スコアのつけ方完全マニュアル』、
『野球審判員マニュアル(第4版)』、『審判メカニクスハンドブック(第6版)』

都道府県組織・世代別組織との連携強化

- ・団体間連携推進部会での協議継続

普及振興委員会

- ・野球とのタッチポイント環境の整備
- ・野球界全体との事業推進(共通課題の克服に向けて)
→日本野球協議会との情報共有及び事業推進

団体間連携推進部会

- ・連携モデルの構築
- ・モデル地区での実践
- ・連携情報の発信＝公認メディア(Homebase-日本の知と技の集積地-)の活用
- ・審判員の団体間交流促進(ライセンス部会と共有)
- ・普及振興事業実施の際の申請簡素化
- ・中学部活動改革への対応

表彰・顕彰制度の創設

- ・指導者・団体役員への表彰・顕彰制度の創設

登録システムの確立

- ・NPBおよび各加盟団体との連携推進

指導者ライセンス制度の確立

- ・指導者資格制度の推進
- ・BFJ公認野球指導者資格付与
- ・講習会スキームの計画立案
(BCC＝野球指導者講習会/BASEBALL COACHING CLINIC含む)



2018年度野球指導者講習会(BCC)



2019年度野球指導者講習会(BCC)

BFJ公認野球指導者 基礎Ⅰ～Ⅲ 資格体系の整備



BFJ公認野球指導者 基礎Ⅰ (U-12、U-15) テキスト

Baseball5の普及・強化

- ・2026年ユース五輪を見据えたU18世代への普及振興および強化
- ・大学生への競技の普及振興
- ・地域を巻き込んだ「おらが町」チームによる普及振興

Baseball5の
公認球

1.



2.



3.



4.

4.5. 2022年2月
Baseball5 体験会
(奈良県大淀町)

1.2.3. Baseball5 ワールドカップ2022(メキシコ)

「ベースボール5」または「B5」は、2017年に世界野球ソフトボール連盟(WBSC)より野球・ソフトボール振興の一環として発表された新アーバンスポーツです。基本的なルールは野球・ソフトボールと同じですが、若い人を対象としたスピーディでダイナミックなスポーツで、ゴムボール1つさえあればどこでも楽しむことができます。この手軽さから世界70カ国以上でプレーされています。

試合は1チーム5人制(公式国際大会では男女混合)で行われます。元々はキューバの街中にて遊ばれていた、クアトロ・エスキナス(4つの角という意味)という手打ち野球が原点ですが、アフリカなど野球の設備や道具が不足している地域でも野球・ソフトボールというダイヤモンドスポーツとコンセプトを理解してもらうための普及活動としてプレーされてきました。近年、新たなアーバンスポーツとしての価値が加わり急速に世界へ普及され、現在も広がり続けています。

また2022年ダカールユースオリンピック(2026年へ延期)の公式種目に追加されました。初の男女混合競技となります。

日本国内でのBaseball5事業については、一般財団法人全日本野球協会(BFJ)と公益財団法人日本ソフトボール協会(JSA)が合同で『Baseball5 JAPAN』を立ち上げ公式事業を進めております。2022年11月に初めて開催されたWBSCベースボール5ワールドカップで、日本は銀メダルを獲得しました。



Baseball5 ワールドカップ2022(メキシコ)

2023年から2028年までのおもな国際大会スケジュール

BFJ MID-TERM Plan
一般財団法人 全日本野球協会 中長期計画



	2023	2024	2025	2026	2027	2028
JOC	●第19回 アジア競技大会 📅9/23～10/8 📍中国・杭州	●第33回 オリンピック競技大会 📍フランス・パリ		●第20回 アジア競技大会 📍日本・愛知 名古屋		●第34回 オリンピック競技大会 📍アメリカ・ロサンゼルス
プロ	●第5回 ワールドベースボールクラシック 📅3/8～21 📍台湾、日本、アメリカ ●第2回 アジアプロ野球チャンピオンシップ 📅11/16～19 📍日本・東京ドーム	●第3回 WBSC プレミア12 📅11月(予定)			●第4回 WBSC プレミア12	
社会人	●第30回 BFAアジア選手権 📅12月初旬予定 📍台湾・台中市			●第20回 アジア競技大会 📍日本・愛知 名古屋		
U-23		●第5回 WBSC U-23ワールドカップ		●第6回 WBSC U-23ワールドカップ		●第7回 WBSC U-23ワールドカップ
大学	●第44回 日米大学選手権 📅7/7～13 📍アメリカ	●第1回 BFA 大学選手権 📅未定 📍未定 ●ハーレムベースボールウィーク 📍オランダ・ハーレム	●第45回 日米大学選手権 📍日本			
U-18	●第31回 WBSC U-18ワールドカップ 📅9月上旬 📍台湾・台北市	●第13回 BFA U18アジア選手権	●第32回 WBSC U-18ワールドカップ		●第33回 WBSC U-18ワールドカップ	
U-15	●第11回 BFA U15アジア選手権 📅未定 📍未定	●第7回 WBSC U-15ワールドカップ				
U-12	●第7回 WBSC U-12ワールドカップ 📅7/28～8/6 📍台湾・台南市	●第11回 BFA U12アジア選手権	●第8回 WBSC U-12ワールドカップ 📍台湾・台南市		●第9回 WBSC U-12ワールドカップ 📍台湾・台南市	
女子	●第3回 BFA 女子アジアカップ 📅5/21～6/2 📍香港 ●第10回 WBSC 女子ワールドカップ グループステージ 📅9/13～9/18 📍日本・広島県三次市	●第10回 WBSC 女子ワールドカップ ファイナル	●第4回 BFA 女子アジアカップ	●第11回 WBSC 女子ワールドカップ グループステージ	●第11回 WBSC 女子ワールドカップ ファイナル	
Baseball5 一般	●第2回 アジアカップ 📅未定 📍未定 ●第6回 アジアインドア & マーシャルアーツゲームス 📅11/17～26 📍タイ・バンコク	●第2回 ワールドカップ	●第3回 アジアカップ	●第3回 ワールドカップ		
Baseball5 ユース (U-18)	●第1回 ユースアジアカップ 📅2/8～11 📍マレーシア・クアラルンプール →不参加 ●第1回 ユースワールドカップ 📅未定 📍未定	●第2回 ユースアジアカップ	●第2回 ユースワールドカップ	●第3回 ユースアジアカップ ●ユースオリンピック 📅10/31～11/13 📍セネガル・ダカール		
その他	侍ジャパン結成10周年	プロ野球90周年	東京六大学100周年			

BFJ組織沿革

西暦(和暦)	月	出来事
1967(昭和42)	3月	日本学生野球協会および日本社会人野球協会(現・日本野球連盟)が、日本を代表するチームの国際野球大会への参加、またはこれの開催のために、その共同付属機構として「日本アマチュア野球国際委員会」を設置
1980(昭和55)	8月	アジア地域初の世界アマチュア野球選手権大会を開催
1984(昭和59)	8月	ロサンゼルス・オリンピックで金メダル獲得(野球は公開競技として実施)
1986(昭和61)	10月	IOC総会において、1992年バルセロナ・オリンピックから野球が正式種目となることが承認される
1988(昭和63)	9月	ソウル・オリンピックで銀メダル獲得(野球は公開競技として実施)
1990(平成2)	3月	「日本アマチュア野球国際委員会」を発展的に解消
	6月	「全日本アマチュア野球連盟」発足 JOGに加盟 武田豊が全日本アマチュア野球連盟初代会長に就任
1992(平成4)	8月	バルセロナ・オリンピックで銅メダル獲得
1994(平成6)	4月	第1回 全日本野球会議開催、共同声明を発表
1995(平成7)	12月	プロアマ合同事業として第1回指導者講習会を実施
1996(平成8)	8月	アトランタ・オリンピックで銀メダル獲得
	9月	IBAFが国際大会の出場選手規程を改正。プロ選手の出場が可能に
1998(平成10)	4月	全日本野球会議の分科会として、オリンピック選手編成委員会、国際交流委員会を設置
2000(平成12)	9月	シドニー・オリンピック 4位
2004(平成16)	8月	アテネ・オリンピックで銅メダル獲得
2005(平成17)	7月	IOC総会において、2012年ロンドン・オリンピックから野球が正式種目から外れることが決定
2008(平成20)	8月	北京オリンピック 4位
2013(平成25)	4月	一般財団法人全日本野球協会設立(全日本アマチュア野球連盟より移行)、全日本軟式野球連盟が加盟、八田英二が全日本野球協会 初代会長に就任
	5月	一般社団法人日本野球機構(NPB)と共に「野球日本代表マーケティング委員会(JBMC)」を設立
2015(平成27)	4月	アマチュア野球規則委員会による公認審判員の資格制度が始まる
	6月	市野紀生が一般財団法人全日本野球協会会長に就任
2016(平成28)	5月	日本野球機構とともに「日本野球協議会」を設置、第1回幹事会を開催(全日本野球会議は解散)
	8月	野球・ソフトボールが東京2020オリンピックの追加正式種目として採用が決まる
2018(平成30)	5月	山中正竹が一般財団法人全日本野球協会会長に就任
2021(令和3)	8月	東京2020オリンピックで金メダル獲得

BFJ組織概要

名称：一般財団法人全日本野球協会 Baseball Federation of Japan(略称B.F.J.)

目的：この法人は、わが国におけるアマチュア野球界を代表する団体として、野球競技の普及及び振興を図り、もって児童・青少年の健全な育成及び国民の心身の健全な発達に寄与し、または豊かな人間性を涵養すること、更に国際友好親善に貢献することを目的とする。

設立年月日：2013年(平成25年)4月1日 一般財団法人設立

※前身の「全日本アマチュア野球連盟」は1990年(平成2年)6月20日に設置された。

会長(代表理事)：山中 正竹

所在地：〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square 10階

TEL:03-6262-5489 / FAX:03-6262-5490

公式ホームページ <https://www.baseballjapan.org/jpn/>

Facebook <https://www.facebook.com/bfj.or.jp>

Twitter https://twitter.com/official_BFJ

Baseball5 公式ホームページ <https://www.baseball5.jp>

Homebaseホームページ <https://homebase.baseballjapan.org>



一般財団法人
全日本野球協会
BASEBALL FEDERATION OF JAPAN